

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19530768
 研究課題名（和文）ドイツ、オーストリアのデュアルシステムの変容と学校型職業教育・訓練の役割

研究課題名（英文）The changing Dual system and the roll of school-based vocational education and training in Germany and Austria

研究代表者

佐々木英一（SASAKI EIICHI）
 追手門学院大学・心理学部・教授
 研究者番号：30125471

研究成果の概要（和文）：1990 年代以降の産業構造の変化に伴い、製造業中心のデュアルシステムは、capacity が減少しているのに対し、従来から中等学校でも職業教育・訓練を行っていたオーストリアのデュアルシステムとの併用方式の有効性が明らかになっている。

研究成果の概要（英文）：The vocational education and training systems in Germany and Austria are changing from mainly dominated Dual System to mixed system consisted of Dual System and school-based system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：デュアルシステム、職業教育・訓練

1. 研究開始当初の背景

開始当時はわが国の若年者雇用問題が深刻化し、その対策として若者の職業能力の養成について関心が高まっていた。その際、日本版デュアルシステムが実施されるなど、注目されたのがドイツのデュアルシステムで

あった。このシステムは、後期中等教育段階で、職場の実践的訓練を主として、週 1-2 日程度の職業学校での座学を組み合わせたシステムである。

しかし、このデュアルシステムは、ドイツ本国においては、その有効性について、さま

ざまな論議が行われており、その正確な状況の検証が必要とされていた。その際、同じくドイツ文化圏に属するオーストリアは別の方策を取っており、両者を比較検討することが有益な示唆を得られると考えた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、上記の問題意識にそって、ドイツ及びオーストリアのデュアルシステムの1970年代以降の変化を、比較検討することによって、initial training における

デュアルシステムの今日的意義と問題点、及びデュアルシステムと並行して存在する学校型職業教育・訓練の今日的役割と課題を明らかにすることである。

(2) 従来同一のデュアルシステム型とされてきたドイツとオーストリアは、実際には1970年代以降、大きな相違を示してきた。即ち、オーストリアでは、デュアルシステムの比重は徐々に低下し、それに代わって上級職業教育上級学校 (Berufsbildende höhere Schule) 及び職業教育中級学校 (Berufsbildende mittlere Schule) が、職業教育・訓練の主たる機関になっている。一方、ドイツにあっては、デュアルシステムが依然として主流であるものの、1990年代以降職業専門学校 (Berufsfachschule) などの全日制の学校型職業教育・訓練が増加してきた。そこでデュアルシステムの停滞と学校型職業教育・訓練への関心から、オーストリアへの関心が高まった。

(3) こうしたドイツにおけるデュアルシステム中心主義からの変化を、オーストリアの学校型職業教育・訓練とデュアルシステムの併存という視点から整理することによって、ドイツ及びオーストリアの職業教育・訓練の問題状況を鮮明にする。

(4) その解明を通じて、今日の我が国における若者の職業能力の養成の今後の方向についての示唆を得る。とりわけ、後期中等教育段階での職業教育・訓練の在り方を考察する上での有益な示唆を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

研究の方法は主として、文献研究と大学・

学校訪問によった。

(1) 文献研究については、ドイツ及びオーストリアの教育学、職業教育・訓練関係の専門雑誌のレビューと最新の情報の収集によって行った。具体的には、相対的に資料の少ないオーストリアの情報については、ウィーンの連邦行政図書館所蔵の資料から多くの知見を得た。

(2) 学校・大学訪問については、ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州のミュンスターを中心とする地域の職業教育・訓練関係施設及び、ミュンスター大学の関係者に聞き取りを行った。また、ブレーメン大学、オルデンプルグ大学の研究者とも意見交換を行った。

4. 研究成果

研究を通じて得られた知見は以下の通りである。

(1) ドイツにおける職業教育・訓練の主たる形式であるデュアルシステムは、依然として同世代の約60%が進むなど、中心的な地位を占めているものの、量的には漸減しつつある。と同時に、質的な変化も生じている。すなわち、デュアルシステムの中心的存在であった製造業の相対的地位の低下と、第3次産業分野の膨張によって、職業教育・訓練の内容も変化してきている。マニュアルな訓練よりも、ヒューマンスキルやコミュニケーションスキル、知的な情報操作を必要とする職種が増加し、訓練生にはより高度な知的能力が求められるようになってきている。

その結果、全体的に訓練生の学歴が高くなり、学力的に遅れがちな者のデュアルシステムへの入場が全体として厳しくなっている。彼らは、移行システム (Übergangssystem) といわれる職業準備機関に入れられるが、職業訓練に移ることがなかなか困難になっている。現在、この移行システムに入る者の数が年々増加し、学校から仕事への移行問題として深刻な問題となっている。ここに入る若者の多くは、移民の背景を持つ者、貧困な家庭の出身者などがおおく、社会問題としても大きな問題となっている。

(2) こうした、産業構造の変化に伴い、ドイツではサービス業などに対応した職業専門学校 (Berufsfachschule) などの、学校型の職業教育・訓練の比重が高まってきている。このタイプの職業教育・訓練は従来、医療、福祉、対人サービスなど女子が多く学ぶ領域であったが、近年は性別にかかわらず多く

の若者が学ぶ場となっている。ただ、このタイプの職業教育・訓練は、デュアルシステムに比べて法的な整備が遅れ、全国的な基準がなく統一性に欠けていた。しかし、その後、徐々に法的な整備が図られつつある。

(3) 一方、オーストリアでは早くから、デュアルシステムと並んで、後期中等教育段階で学校型の職業教育・訓練が発達した。すなわち、大学進学も、職業資格の獲得も可能な職業教育高等学校と、職業資格が取得できる職業教育中等学校を整備し、理論教育を重視した職業教育・訓練制度を発展させ、産業の高度化に対応してきた。

(4) このオーストリア型の職業教育・訓練制度は、社会全体の高度化に伴う若者の進学要求の高まりを柔軟に吸収しつつ、職業教育・訓練の高度化にも対応するというすぐれた性格を持つと思われる。すなわち、特に、職業教育上級学校は、後期中等教育段階で、大学進学も就職も可能な教育を保障する制度であるからである。ドイツのように、後期中等教育段階ではっきり進学と就職が分けられる学校制度が、職業教育・訓練の高度化に十分対応できなくさせ、デュアルシステムの質的变化と学校型職業教育・訓練との不十分な連携による混乱を避けることができるからである。

(5) 以上から、製造業の衰退と産業の知識化・高度化に対応した今後の教育制度を考える場合、ドイツのシステムに比して、オーストリアの制度の方が柔軟に対応できると考えられる。ドイツは現在、デュアルシステムの維持を大きな政策課題として、種々の方策を講じている。しかし、すでに述べた移行システムの膨張と、デュアルシステムの縮小傾向に対し、画期的な改革方向は示されていない。学術的には、かなりの研究者がオーストリアのシステムに注目し、学校型職業教育・訓練の充実を提唱しているが、未だ全体的な潮流とはなっていない。

もともとデュアルシステムの収容力の弱い旧東ドイツ地域の一部では、学校型職業教育・訓練に、デュアルシステムの実践的訓練の要素を取り入れて、学校を主体としつつ、現場での実践的訓練を大きく取り入れたカリキュラムが始められている。今後の成り行きが注目される。

(6) わが国の現状を考える場合、オーストリアのシステムが特に参考になる。というの

も、わが国では、企業が中心となるデュアルシステムの構築は全く不可能であるのに比して、学校型職業教育・訓練は十分な基盤があるから。即ち、わが国の高等学校は制度上、どの学校も大学進学資格が付与されているからである。普通科の教育内容の見直しと、専門教育のより一層の充実により、オーストリアのシステムに近いものが可能であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ①佐々木英一、ドイツにおける職業教育・訓練の構造転換—社会経済構造の変化とデュアルシステムの危機、追手門学院大学心理学部紀要、査読なし、第 4 号、2010、73-106
- ②佐々木英一、ドイツにおける学校から仕事への移行の現状と課題—2008 年ドイツ記白書に見る移行問題—、追手門学院大学教職課程年報、査読なし、第 17 号、2009、15-26
- ③佐々木英一、転換期のドイツ・デュアルシステム、追手門学院大学教職課程年報、査読なし、第 16 号、2008、33-45
- ④佐々木英一、オーストリアにおける職業教育・訓練の現状と特徴、追手門学院大学教職課程年報、査読なし、第 15 号、2007、15-26
- ⑤佐々木英一、オーストリアにおける職業教育・訓練制度、技術教育研究、査読あり、第 66 号、2007、24-29

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 4 件)

- ①佐々木英一、他、ドイツ教育学における一般陶冶と職業陶冶の関係—新人文主義教育を中心に—(元木健、田中萬年編著『非「教育」の論理—「働くための学習」の課題』、明石書店 2009、348

② Sasaki, 他、Quarialität Technischer
Bildung,

Machmit-Verlag, Berlin, 2009, 303

③ 佐々木英一、他、熟練工養成の国際比較、
ミネルヴァ書房、2007、285

④ 佐々木英一、他、もう一つのキャリア形成、
職業訓練教材研究会、2008、275

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 英一 (SASAKI EIICHI)
追手門学院大学・心理学部・教授
研究者番号：30125471

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：